

1. ジェスチャー（言葉を身ぶりで表し、それが何かを当てさせる。）

(1) 全員で各単語のジェスチャーをやってみる。

swim	泳ぐ	whistle	口笛を吹く
dive	(水中へ)飛び込む	cook	料理をする
ski	スキーをする	e-mail	Eメールを送る
skate	スケートをする	drive	車を運転する

(2) 2人1組でジェスチャーをする。

\* 隣の人と2人1組になる。

各ペアで上記の単語を1つ選び、必要ならば立ち上がってそれを身ぶりで表す。2人が同じ身ぶりをしてもよいし、選手とコーチのような関係を設定して、異なる身ぶりをしてもよい。準備をしているときの身ぶりなどにすると、わかりにくくなっておもしろい。

(3) 発表する。

\* 発表者は英語は言わずに身ぶりのみをし、発表が終わったら、何をしていたのか他の人に当てさせる。発表者は答えが当たったら"Yes"、はずれたら"No"と言う。

(4) 2人1組でゲームを行う。

\* 2人1組になり、出題者と解答者を決める。出題者がいずれかの身ぶりをし、相手に英語を当てさせる。なるべくテンポよく次々出題させる。教師の合図で出題者を交替する。

\* 勝ち負けはなくしてもいいし、全種類やって正確に当てたほうが勝ちとしてもよい。

## 2. できることを伝えるときの表現

### できることを伝えるときの表現

<b>I can swim.</b>	私は泳げます。
<b>You can swim.</b>	あなたは泳げます。
<b>I can drive.</b>	私は跳びこみができます。
<b>I can ski.</b>	私はスキーができます。
<b>I can skate.</b>	私はスケートができます。
<b>I can whistle.</b>	私は口笛がふけます。
<b>You can cook.</b>	あなたは料理ができます。
<b>You can e-mail.</b>	あなたはEメールを送れます。
<b>You can drive.</b>	あなたは車の運転ができます。

ゲーム「プラスワン」の中で、これらの表現を使う。

#### (1) ゲームの準備をする。

6～8人のグループを作り、お互いの顔が見える位置に座る。各グループに単語カードを1セット配り、1人1枚ずつ自由にとってもらい、自分だけが見て、裏返しておく。各グループでは、スタート役1人と回り順を決める。

#### (2) ゲームを開始する。

スタート役の人、自分の単語カードについて、“I can...”と言い(例えばカードがswimだったら“I can swim.”)カードを一瞬見せる。隣の人、それを見て“You can swim.”と言ったあと、自分の単語カード(例えばdive)について“I can dive.”と言い、カードを一瞬見せる。さらに隣の人、スタート役を見て“You can swim.”隣の人を見て“You can dive.”と言ったあと、自分の単語カードについて例えば“I can ski.”と言う。同様にして、最後の人まで続ける。終わったら最後にもう一度グループ内で“You can...”“You can...”と全部の文を言う。(ただし、自分の文の時は黙っている。)速さは競わず、勝ち負けもない。

\* 前の人、自分が言った文を繰り返すときは、その人の顔を見る。

前の人、自分が何と言ったか忘れてしまったら、その人にカードを見せてもらう。

ここで言う文は、実際に自分ができないものであってもよい。